

令和4年度 斎藤清美術館 館長講座・学芸員講座 (各回定員25名・参加費無料)

【館長講座】

第1回 「富を求めるのは可能性の保持のため ― 寄付の文化が育んだアメリカの美術館」

■ 7月23日(土) 14:00～15:30

ルーヴル美術館(フランス)、美術史美術館(オーストリア)、プラド美術館(スペイン)、エルミターージュ美術館(ロシア)などヨーロッパの主要な大美術館と、後発のメトロポリタン美術館やニューヨーク近代美術館をはじめとするアメリカの美術館の成り立ちには大きな違いがある。それぞれの主要な美術館の歴史をふまえながら、アメリカの美術館の特質について解説する。

第2回 「西洋美術における死の寓意」

■ 9月17日(土) 14:00～15:30

金持ちにも貧しい人にも、アルカディア(牧歌的な理想郷)にも死は等しく訪れる。この変わることのない真理にヨーロッパの人々はどう向き合い、美術に表してきたのか。すべては滅び、朽ち果てる。聖書に記された Vanitas(むなしさ)は静物画の誕生につながり、またアカデミックな絵画においても、多くの画家の手により寓意的な「死の舞踏」、「死の凱旋」、「死の勝利」などがつくられてきた。この講座ではルネサンスから近代までのそうした死にまつわる巨匠たちの作品をとりあげて、西洋美術における死の寓意について概説する。

第3回 「描かれたキリスト降誕一謎、そして光と闇」

■ 11月26日(土) 14:00～15:30

老齢の夫婦ヨアキムとアンナからマリアが生まれ、やがて無垢のまま神の子を宿したマリアからキリストが生まれる。無原罪のキリスト降誕は、キリスト教の根幹となる奇跡である。受胎告知、日付と場所、東方3博士の礼拝、嬰兒虐殺・・・降誕にまつわるエピソードは謎も多く、最もポピュラーでありながら、同時に最も美術家たちの想像力を刺激する主題でもあった。本講座では、過去500年間にこの一連のテーマで描かれた絵画作品と作者の背景や相違などについて概説する。

【学芸員講座】

斎藤清美術館開館25周年特別企画として、4月23日より開催する「大コレクション展」。当館が所蔵する斎藤清作品及び関連資料類を、1年かけて、全4期・11のテーマで、一挙大公開するという、開館以来はじめての大型企画展です。中には本展が初お披露目の作品や資料も。そんな「大コレクション展」を、より深く、そして楽しくご覧になっていただくために、各期の見どころや注目ポイントを、学芸員が分かりやすく紹介します。

斎藤清美術館の「すべて」を知ったとき、画家・斎藤清の、「描くこと」に対する深い想いが見えてくる。ぜひ、ご参加ください。

第1回 「大コレクション展」のミカタ！ 第Ⅰ期 追及し続けた、構図と形(フォルム)

：「平面」から「陰影」へ 斎藤清の画業 もう一つの美術史

■ 6月18日(土) 14:00～15:30

第2回 「大コレクション展」のミカタ！ 第Ⅱ期 旅する画家

：アメリカ、フランス、インド、富士…斎藤清が見た世界の姿

■ 8月20日(土) 14:00～15:30

第3回 「大コレクション展」のミカタ！ 第Ⅲ期 会津人にして、異郷人

：改めて考える。斎藤清にとって、「会津」とは何だったのか

■ 10月15日(土) 14:00～15:30

第4回 「大コレクション展」のミカタ！ 第Ⅳ期 昇華するテーマ、不断の画業

：同じ題材を描いていても…斎藤清 変化と深化

■ 2023年1月14日(土) 14:00～15:30